



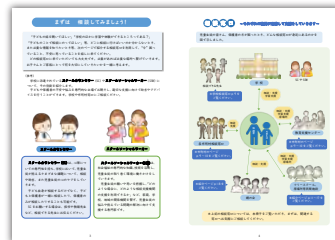
学びの支援サポートブック

「よりそう ～子どもの「今」を支えるアプローチ～」発刊！

子どもが学びたいときに、学ぶ環境を提案できること、さらに多様な学びを選択できる、そんな情報誌として「学びの支援サポートブック よりそう」を発刊しました。

学校に行きたいけど行かない、行くのが辛いなど、保護者や子どもの思いに寄り添い相談窓口の紹介や諏訪地域(6市町村)にあるフリースクール、居場所等の活動内容や特色を掲載しました。

各学校で手に取ることができます。
諏訪市のホームページに掲載していますので、ご活用ください。
(右の二次元バーコードで利用できます。)



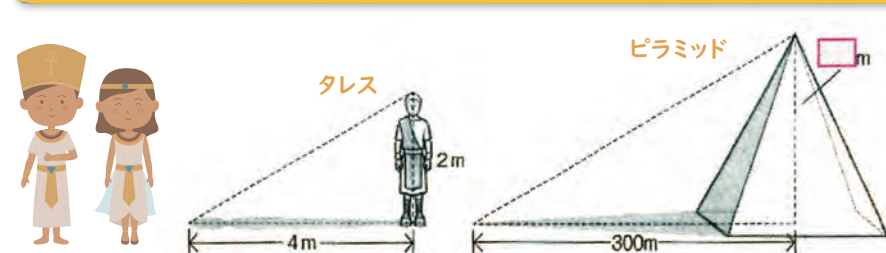
十一面観音

3千年前の古代エジプトでも「算数」が使われていた！ ～ピラミッドの高さはどうやって測る？～

小学校6年 算数

3千年前の古代エジプトでは、太陽の光がつくる影の長さをもとに、ピラミッドの高さを求めたという逸話が残されています。図形の拡大・縮小を学んだ小学校6年生が、古代エジプトに思いを巡らせながら、どのようにピラミッドの高さを測ることができたのか考えました。

古代エジプト人のタレスは、どうやってピラミッドの高さを測ったのでしょうか？



友達同士で相談する子どもたち

子どもたちは、「高さは分かるよ」と言いながら、それぞれ「説明するためのキーワード」を3つ決めて、考えをまとめ始めました。

●Aさん：キーワード→「倍」「比」「影」

ピラミッドの影の長さは、タレスの身長影の長さの75倍になっているから、ピラミッドの高さは、タレスの身長影の75倍になっている。 $2 \times 75 = 150$ **答え 150m**

●Bさん：キーワード→「実際の長さ」「m」「倍」

タレスの影の長さは、身長影の2倍になっている。 $4 \div 2 = 2$

ピラミッドの影の長さ300mも、タレスの身長影のように $300 \div 2 = 150$ **答え 150m**

どの子どもも図の中に2つの三角形を見つけ、それらが拡大・縮小の関係にあることをもとに説明していました。さらに、Cさんは、自分の説明の始めに「太陽のあたる角度が同じとしたとき」と書きました。ともすると、与えられた図形を見た目で判断し、疑わずに結論を出してしまいがちです。前提条件を明らかにしてから説明するという、論理的に思考する姿に出会うことができました。

●Dさんは、授業の感想を次のように書きました。

「古代エジプトでも、算数が実用されていて、昔から算数が使われていることにおどろいた。」

測量の原点と言われる古代エジプトの手法が、その後、発展して現在まで続いていることは言うまでもありません。分かることをもとに、分からないことを推測する。このことは、算数・数学の世界だけでなく、身の回りでも見つけることができます。

●最後に問題です

右の写真は、1mの黄色い板を持った人を、高島城の前で撮影したものです。この写真から、高島城のおよその「高さ」を求めてみましょう。

(答えは3ページ)



3mm

ともに手を携えて創る 諏訪市の学校教育

未来創造

あい・アウンだより

2025/4/1

14

ま な び え が お じ り つ

編集発行：諏訪市教育委員会 教育総務課



作品に思いを込め、仲間と協力して販売



ーチャレンジショップ2024ー

諏訪市独自の教科「相手意識に立つものづくり科」学習の一環で「チャレンジショップ2024」が、去る12月14日(土)諏訪市駅前交流テラス「すわっチャオ」にて、市内小中学校10校参加のもとに行われました。当日は、早朝から大勢の来場者がありました。子どもたちは、丹精込めて作った商品をよりたくさん売ろうと、ブースを訪れたお客さんに、商品に込めた願いや商品のよさを熱心に説明し丁寧に対応していました。この活動を通して、子どもたちは達成感を味わうとともに、ものづくりの大変さや物の大切さを感じることができました。

- 販売するまでに、商品の企画⇒試づくり⇒反省⇒本作り⇒価格設定など、こんなにやることがあると思わなかったし、大変だったけれど、やりがいがあった。(小学生)
- 試作の時は真っ直ぐ縫うのが難しかったけれど、やっていくうちに色々きれいにできてうれしかった。商品が完成されるまでの工程、そしてそこまでかかる人の手数を身をもって知ることができ、より一つの製品を大切に扱っていいと思った。(中学生)

大賑わいの会場



開会セレモニー(挨拶・テープカット)



城南小(クラフトバンド作品)



四賀小(クリスマス・正月用品)



中洲小(レジン・パーバウム他)



上諏訪小(竹製品各種)



豊田小(張り子、染め商品他)



上諏訪中(古材を利用した製品他)



諏訪西中(木工製品・布製品他)



諏訪南中(手作り布製品)



諏訪南中(手作り布製品)



諏訪南中(手作り布製品)



諏訪南中(手作り布製品)

諏訪市の教育大綱

誰もが輝き 誰もが幸せ
新たな時代を切り拓き つながり続ける

学びの和



諏訪市では、これからの時代を担う子どもたちの学びが更に深まり、自分らしさを発揮しながら楽しい学校生活が送れるよう、次の3つのプラン、3つの重点活動を掲げて取り組んでいます。

- ☑ 3つのプラン 1 認めあいプラン 2 支えあいプラン 3 学びあいプラン
- ☑ 3つの重点活動 1 読書活動・読書会活動 2 人権・平和教育 3 地域と一体になった防災教育・安全教育



協働と探究!「子どもゆめプロジェクト」第2期 “諏訪の未来”見つめた4つの提言



令和6年11月23日(土)、「子どもゆめプロジェクト」の第2期生のメンバーが「私たちがつくる、未来の諏訪」の実現に向けて、学校や年代を越えて協働しながら、それぞれ探究した活動をまとめ、諏訪市のこれからのまづくりに関わる提言を行いました。

「生ごみを減らすにはどうすればよいか」(小6)

「たばこのポイ捨てをなくすには」(小5)

「学校の校庭の芝生化について」(小5)

「ペットボトルキャップをリサイクル～世界の人々を救う～」(小5)

自分の問いの答えを見いだすために、探究活動のブラッシュアップを続けました。

キャップの回収箱の試作品

たばこのポイ捨ては、環境への悪影響が大きい→教育活動の強化

- AI 監視スマートゴミ箱によるポイ捨てと犯罪の防止

生ごみ → 家庭でたい肥化 → 資源の循環 CO₂削減 → 農作物 → たい肥商品化 → お店で回収 → ポイント

芝生化にはメリットがいっぱい!!

- 温度上昇の抑制
- CO₂の削減
- 運動能力の向上
- 安全性の向上
- 自然環境学習の場
- 地域コミュニティの形成

ペットボトルキャップの回収箱を作る → 市役所・学校などに回収箱を設置する → キャップをリサイクル・換金や寄付をする

- メンバー
 - ・諏訪市や日本の現状がわかった。SDGs を達成するためにどのような取組をしているのかが分かってよかった。いろいろな所を見学したり、体験したりできて楽しかった。(小5)
 - ・自然環境や SDGs について知れた。更に PC も学べて、沢山のひととコミュニケーションをとって、アドバイスをもらったり、大人になっても使えるような事を沢山もらえました。(小5)
- 高校生サポーター
 - ・フィールドワークは、今まで学校で学んできたことが実際に社会で繋がっていることを感じる事ができ、とても良い経験になりました。また、諏訪市への提言では、調査した資料や、そこからの意見や提言する内容の質がとても高く、とても驚きました。(高2)

小中交流を考え合った“子ども会議”～12月4日 すわっチャオ～

市内 10 校の小学 5、6 年生と中学 2、3 年生合計 59 名が集って“子ども会議”を開きました。

テーマ: “交流”って必要!?

サブテーマ: 私は、自分たちのまちの学校をこんな学校にしていきたい!

これまで取り組んできた交流活動について、中学校区ごと発表し合いました



西山3校交流掲示板

諏訪西中学校区

「ものづくり」の授業で6年生と交流

6月 受注交流会

11月 贈答会

小中合同 交流給食【給食委員会】 R6/10/16

上諏訪中学校区

小学生と長い時間話すことでだんだん距離が近くなり、同じものを食べていたため年齢が多少違っても共通の話題で話すことができた。しかし、給食をパックに詰めて持ち運ぶことの負担の大きさやごみが増えるなどの問題もあった。

2. 交流活動について 小中交流の日

【目的】様々な活動を通して、仲を深め、特に城南小の生徒の中学校への入学の不安をなくす。
・中学生として、リーダーシップを発揮し、あこがれをもってもらう。

①歌の交流 ②委員会ごと交流 ③交流清掃

発表を聞いた後、意見交流をしました

全体の前で活発に質問や感想を発表しました。小グループで一人ひとりが思いを率直に語り、記録者がタブレットでまとめて、発表しました。

会議後の子どもたちの思いは

- “交流”って必要!?
- ・「小中交流によって、中学入学の不安が減って楽しが増え、先輩後輩の仲がよくなる。中学への見通しが持てる。」
- ・「小中、他校(小・中)との交流によって、新しいアイデアや視点、発見、喜びが得られ、自分・自校を見つめなおして高めることができる。」
- ・「交流を通して、コミュニケーション能力がついたり、人間関係作りが学べたり、自分・自校が向上する。」
- 私は、自分たちのまちの学校をこんな学校にしていきたい!
- ・小学生が「安心」して入学でき、さまざまな交流を通して「笑顔」あふれる楽しい学校にしたい。
- ・だれ(他校、地域)とでも仲良く、協力できる学校にしたい。
- ・地域との交流、ボランティア活動、ふれあい、深いつながりなどを大事にしたい。
- ・他校の取組から学んだことを、これからの生かしていきたい。



お子さんに関する心配事は、遠慮なく相談してください。

諏訪市子ども家庭センター すわ☆あゆみステーション(通称「あゆステ」諏訪市役所4階)
○学校教育に関する相談 75-8150(直通) ○子ども・家庭に関する相談・女性相談 75-8151(直通)
○発達に関する相談 75-1176(直通) 心配事の内容に応じて、関係する他の相談窓口とも連携して支援します。